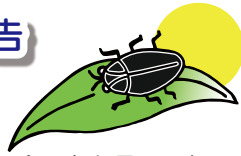


第6回 若槻自然遺産候補地見学会報告 土京川はホタルの理想郷



土京川のホタルといえば皆さんすでに良くご存じの事、今更とお思いでしょうが改めて「若槻自然遺産」の候補地登録のための評価という視点から見てみたい。

遺産委員会ではホタルの飛翔時期に合わせて視察見学会を実施しました。



南面はケヤキなどが生い茂った急峻な斜面、その下の小さなせせらぎ。対岸は開けた台地。夜になると、せせらぎが観賞路まで届き、そのリズムに合わせるかのようなホタルの乱舞が見られます。

まさに自然の光と音のコラボレーションです。

実際には2回に分けて行いました。6月20日早朝、1時間ほどかけて、観賞路に予定されている川沿いの農道を夜では気がつかない地形、樹木、川の形状や特長等を説明しながら一巡し、ホタルの棲息環境の理解を深めました。

ホタルウイーク期間中の7月1日は夜、実際にホタルが飛翔している状況を視察。一般の来場者も同行して観賞路沿いに移動しながら、飛翔の始まりから同時明滅のピーク時をたつぷりと観察し、土京川のホタルの歴史と特長等を紹介しました。

周りの来場者も含め、淡い黄緑の光が目の前をフワリフワリと舞い行きかう様に、皆一様に感嘆の声を漏らしていたのが何時までも心に残っています。



小川の上には底のように覆うケヤキなどの茂み。適度な暗闇を作り雨風を防ぐ枝葉の下は、恋をささやきあうホタルの天国なのです。

～連載～ 「若槻自然遺産」登録候補の紹介

(其の1) 土京川とホタル

改めて説明の必要もない土京川とホタルのこと、なぜ「若槻自然遺産」の候補なのかを皆さんにお話ししたいと思えます。

土京川は、三登山山麓に源を持つかに沢と土京山山麓の鐘撞き堂池からの流れを合わせて、田中と上野の区境を東西に流れ、三才との境で田子川に合流する川です。

土京川とホタルがどのような状況と関連を持っているのか、何故これほどに見る人の心を和ませ豊にするのか、土京川で毎年これほど沢山のホタル（ゲンジボタル、ヘイケボタル併せても）が優雅な輝きと舞いを披露してくれるのか等は別項の記事（第6回自然遺産見学会報告）の中で、また毎年ホタルウイーク期間中に観賞路内で案内するスタッフなどから繰り返し語られています。

そもそも、「若槻自然遺産」というアイディアは平成22年6月、市の地域やる気支援補助金の交付を頂いて、土京川沿いに「観賞路」を整備しその完成式典の際、当時の住自協会長との立ち話に端を発しているのです。

現地を案内しているとき、会長が「これは若槻の宝だね、コミわか挙げて守る価値のあるものだ」と言って下さったのを受けて、私が「実はこれ（土京川とホタル）を『若槻自然遺産第1号』として、住自協が継続的な保護保全に取り組める仕組みを構築したい」と返し、意気投合したのでした。

以来、時間を掛けて構想を練り、いくつもの段階を経て平成25年から若槻自然遺産登録事業をスタートさせました。



夜の土京川：幻想的なゲンジボタルの乱舞

土京川には現在ゲンジボタルとヘイケボタルが仲良く共存しています。長く光の尾をなびかせながらゆったりと舞うゲンジに対し、少々気短な点滅を繰り返しせわしげな飛び方をするヘイケ。

ホタルの一生を支える土京川の流れと周辺的环境、地形、景観など、一つ一つの要素が程良いバランスでホタルが生息するための最高の環境条件を形成しているというのが、これまでの調査を通しての評価です。

人の暮らしと自然の接点として、身近な土京川の自然環境は、まさしくホタルだけでなく私たち人間にとっても、好ましい自然環境なのです。この環境とホタルを地域挙げて守ることは、若槻地区に住む私たちの大きな責務と思います。

若槻自然遺産に登録する意味と価値を是非皆さんもご理解下さい。
(文責・大村道雄)